

安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 危険	
⚠	<p>高圧線への接近による放電や感電、さらに高電圧による感電は、最悪の場合重大事故(感電死)を招く恐れがあります。尚、水に濡れたグラスロッドも同様の危険がありますのでご注意ください。</p> <p>気象条件により、空気中に電気を帯びている場合があります。ビビリと電気を感じるのはその為です。天候の変化等により危険を伴いますので、そうした場所での釣は避けください。落雷・感電による感電死を招く恐れがあります。</p>
⚠	<p>電線との接触による感電 高圧線・線路・鉄橋等の電線による感電に注意してください。釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。特に電線等に接触、または、釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣り場を移動する時は竿をたたみ、高圧線・線路・鉄橋等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。</p> <p>落雷による感電 落雷による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。また、雷の発生がなくとも、釣竿から電気を感じるようなときも同様、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。</p> <p>釣り場以外の電線による感電 釣り以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。</p>
⚠ 警告	
⚠	<p>キャスティング(投げる)時の注意 キャスティング(投げる)の時は、周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ルアーフック、オモリ等が人に当たると非常に危険です。</p>
⚠ 注意	
⚠	<p>回着のゆるめ方 釣竿の回着(継ぎ部が食い込んで外れない時は)、継目の両側近くに、すべり止めを当てて握り、互いに逆方向へヒネリながら押して(振出竿の場合)、継目をゆるめてください。その際、一気に力を入れると釣竿の継目に手をさみ、けがをするおそれがあります。</p> <p>●竿の構造上、回着を完全に防止することはできません。回着をゆるめる時等、強く竿を握ると竿が潰れて破損し、手等に怪我をする場合がありますのでご注意ください。</p> <p>●回着をゆるめる時等、ガイド部分を握って節の差を狭くしないでください。ガイドの変形や糸止部の破損の原因になり、手等に怪我をする場合がありますのでおためください。</p> <p>根掛かりの外し方 根掛かり(水中、陸上での障害物に仕掛けが絡みはすれない状態)した時は、無理に竿をおろさないでください。竿が折れたり、外れた仕掛けが飛んできて、けがをするおそれがあります。根掛かりは、出来るだけ、糸を手にとり引っ張って糸を切ってください。その際、糸で手を切る事故がありますので、手袋やタオルで手を保護してください。</p> <p>破損時の取り扱い方 使用中、万が一釣竿が破損(折れ、割れ、欠け、剥離)した場合、破損した箇所を手などけがをするおそれがあります。</p> <p>子供の手の届く所に置かないでください 誤使用による事故や怪我に繋がる恐れがあります。</p> <p>釣竿を釣り以外の目的に使用しないでください 事故や怪我につながる恐れがあります。</p> <p>竿の一部や穂先等を無理に曲げると折れることがあります 折れた竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがありますのでご注意ください。</p> <p>安全に釣りをして頂くために 万一、竿が破損してしまった場合、破損した竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがあります。釣りをする際には、安全のためサングラス(偏光グラス)、帽子の着用をお勧めします。</p>

修理部品に関するお願い

パーツを注文される際には、必ず商品名と商品コード番号をお知らせください。

弊社では修理部品を商品コード番号によって分類しています。穂先交換などご自分で修理される場合には、商品コード番号をお知らせください。商品コード番号は、保証書(保証書の付かない商品もあります)、本体元竿、パッケージのラベル等に記載されています。商品コード番号を控えて、修理の際には必ず御提示ください。

●修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。

修理対応期間につきましてはシマノカスタマーセンター HP (<https://www.shimanofishingservice.jp/>)をご覧ください。

※商品コード番号は、数字の5ケタまたは6ケタになっています。(例) CODE No.12345 または CODE No.123456

保証書
(保証書の付かない商品もあります)

元竿

パッケージ

株式会社シマノ
〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

お問い合わせ
0120-861130 (ハローイサオ)
【受付時間】AM9:00~12:00 PM1:00~5:00(土、日、祝日は除く)

<http://www.shimano.com>

新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つシマノならではのオリジナル情報を発信しています。また、カタログのお申し込みも受け付けています。

■アフターサービスに関する情報やパーツ互換性の検索、メンテナンス動画などご視聴いただけるHPアドレス：
<https://www.shimanofishingservice.jp/>

7WHRCGHM000-005

SHIMANO

中通し振出船竿

取扱説明書

このたびは、シマノロッドをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

いかに軽くて丈夫なロッドでも、乱暴な取り扱いでは、竿を傷めてしまいます。

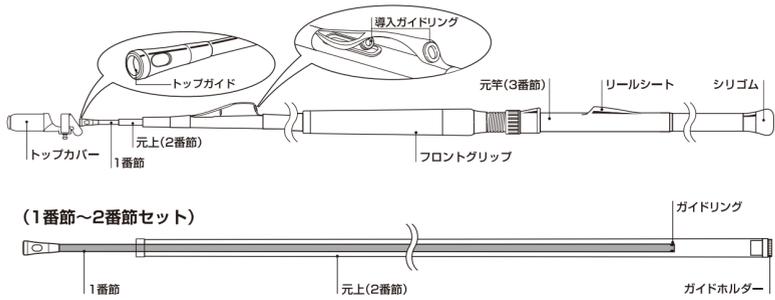
釣り人にとって、竿は大切な体の一部。

この説明書をお読みの上未永く、

ご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

各部の名称と仕様

●イラストは中通し振出船竿の3本仕舞で説明しています。



●ロッドの曲がりについて
現在のロッド生産技術上、グラスロッド、カーボンロッドの違いを問わず各部分の曲がりを100%排除することは不可能な状態です。特にカーボンロッドに於いては継ぎ目自体の持つ強い剛性のため、ロッド全体に垂れ下がりが無いので従来のグラスロッドに比べ曲がりかどうしても目立ちます。強度機能上は問題ありませんので、ご安心ください。

●改造後の責任は負いかねます。
改造後の故障については、保証期間中であっても負いかねる場合があります。ご注意ください。

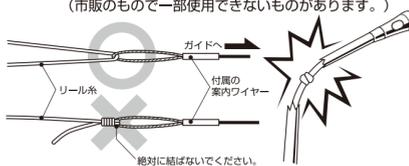
●万一の故障の時
お買い上げの販売店又は、シマノ製品お取扱販売店にお預けください。お近くにシマノ製品お取り扱い販売店が無い場合や、販売店へ修理品を持ち込む以外の方法を検討される場合には、シマノダイレクト修理サービスもご利用頂けます。詳しくはシマノカスタマーセンター HP (<https://www.shimanofishingservice.jp/>)をご覧ください。その際、保証書付きの商品は保証書とお買い上げ年月日の記載がある購入証明を添えてください。

※この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造中止後6年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性があります。



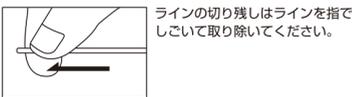
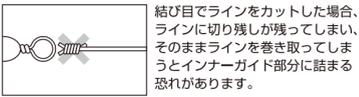
使用上のご注意

- 破損の恐れがありますので、
 - 案内ワイヤーで、リール糸を通す場合は、チチワ部分には絶対に結ばないでください。
 - 案内ワイヤーは、付属の専用ワイヤーをご使用ください。(市販のもので一部使用できないものがあります。)
- 使用される道糸は、**PE8号以下をご使用ください。**(全アイテム共通)
- ウキ止め等をお使いになる時は、あらかじめ1番節に糸に通ることを確認した上でご使用ください。1番節に通す時、抵抗がある場合は無理に通さず、道糸・ウキ止め等を小さいサイズにしてご使用ください。また、ウキ止めの余った部分は短く切ってお使いください。
- 一部の新品の糸では、粘性性粉末等が出て、内面が詰まる事があります。リールに巻き取る時、布等で拭き取りながら巻いてください。



●1番節の過度な手曲げは、差し控えてください。

- 付属の案内ワイヤーは多少、巻きぐせが付くことがあります。手などで強くしごいたり、折曲げたりすることは絶対に結ばないでください。付属の案内ワイヤーは小さく巻いたり、強く巻いたりしないでください。手のひらで軽く巻く程度が最適です。
- 案内ワイヤーは、使い終わったら必ず付属のケースに入れ布袋等に収めてください。伸ばしたままの状態ではバッグ等に収納しますとクセが付く原因となります。
- ラインは、結び目部分の切り残しを取り除いてから巻き取ってください。
- 糸を通したまま収納する時や、糸を通したまま竿を伸ばす時は、糸の先にオモリ等を付け、竿の内部で糸がたるまないようにしてください。たるんだまま収納したり伸ばしたりすると、内部で糸がかんで、素材や糸に傷がつく恐れがあります。

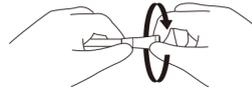


分解・お手入れ方法

- 分解手順 (3本仕舞の場合)
- 元竿の尻栓を左に回して外します。
 - 1番節～元上(2番節)をセットで元竿(3番節)から引き抜きます。
 - 元上(2番節)のガイドホルダーと1番節のトップホルダーを外してください。1番節が抜けます。



トップホルダーを外す時は、1番節が折れる原因となりますので、下図のように取り付け部分をつまんでトップホルダーを回すようにしてください。



- 組立手順 (3本仕舞の場合)
- 組立は前記の分解手順と逆に順次行ってください。
 - 組立の時、元上(2番節)のガイドホルダーは十分締め付けてください。ネジの締め付けが不十分だと、トラブルの原因になります。
 - 元竿の尻栓はしっかりと締め付けてください。締め付けが不十分だと尻栓が外れて紛失の恐れがあります。

- 竿外表面の使用後のお手入れ
- 使用後は水洗いをして、汚れや塩分をきれいに落とし、乾いた布で水気をふきとり、風通しの良い場所に日陰干しをしてください。ロッド外側の頑固な汚れは台所用の洗剤等を含ませた柔らかい布でふき取ってください。
- 市販のクリーナーやワックス、洗剤や、ベンジン等の有機溶剤をご使用になるときは十分注意してください。塗装を痛める原因になります。また、内部加工面を傷つける恐れがありますので、竿内部には、市販のロッドクリーナーやワックス・洗剤などを付着させないように注意してください。

- 竿内部のお手入れ
- 竿内部の洗浄は、毎釣行後に真水か、ぬるま湯を通してください。1番節は必ずトップガイドから強く息を吹き込んで残った水分や、ゴミを取り除いてください。



- ハイパーリベルロッドのご注意
- 竿内部には、特殊な超撥水処理をしているため、ワイヤーブラシ等は絶対に使用しないでください。(内部加工面を傷つける恐れがあります。)
- 市販のスプレーやベンジン及びシンナー等の有機溶剤等も内部加工面を傷つける恐れがあり性能が低下しますので、絶対に使用しないでください。

シマノ純正の超撥水仕様「インナーガイド アクティブスプレー」(別売)をご使用ください。

竿内部の撥水性を維持し糸のベタつきを抑え、仕掛けの投入・飛びがスムーズになるシマノ純正のIG専用スプレーです。



ご使用方法

- 糸通しから竿セットまでの作業
- 中通し竿のメリットを生かすために、糸通しはできるだけ、乗船前に済ませておくことをお勧めします。
- 1 竿の糸通しは、元上(2番節)を伸ばします(1番節は収納した状態で)竿を上に向けた状態で行なってください。
 - 糸通し作業時の状態 (3本仕舞の場合)

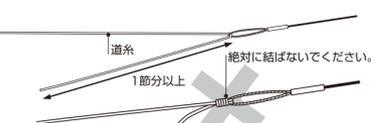


1 1番節が収納されているか確認してください。

2 元竿にリールを取付けて、道糸を十分に引き出してください。



3 案内ワイヤー先端のチチワ部分に道糸を通し、一節分以上折り返してください。チチワ部分には、直接道糸を結ばない様にしてください。



4 元竿の導入ガイドから、案内ワイヤー先端(チチワと反対側)を通して行きます。



5 トップガイドの先端からワイヤーの端が出たら、ワイヤーのひっかかりがないかを確認しながらゆっくり引っ張って道糸をだしてください。



●1番節の先端は径が細くなります。もし途中でひっかかる様なことがあればむりをせずにもう1度やり直してください。

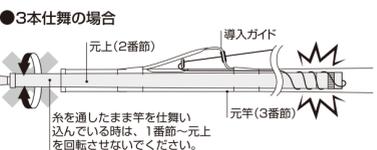
6 道糸を通したら、スナップサルカン等を付けてください。道糸が戻ることはありません。



7 リールをフリーにした状態で1番節から順番に継ぎ目を固定しながら竿を引き出してください。

- 糸を通したまま竿を仕舞う場合
- 糸を通したまま竿を仕舞う時は、竿の内部で糸がたるまないようにテンションをかけた状態で仕舞い込んでください。たるんだまま竿を仕舞うと内部で糸が絡む恐れがありますのでご注意ください。

糸を通したまま竿を仕舞い込んでいる時は、1番節～元上を回転させないでください。糸が絡んで破損の原因となります。



前項の後に仕掛けをセットする場合

- 3本仕舞の場合
- 1 前項目で仕舞い込まれた状態は導入ガイドから入った道糸が元上(2番節)と元竿(3番節)のすき間に、導入ガイドと元上(2番節)後端のガイドホルダー部の2箇所道糸が180°折れ曲がって入っています。この状態で道糸を出す場合は、1番節から順次引っ張り出しますが、元上を引き出してから行うと、よりスムーズに道糸を出すことができます。
- 元上を引き出す時に元竿のすき間にある道糸が元上と元竿の合わせの部分に吸い込まれて道糸がカミ込む恐れがありますので十分にご注意ください。

- 2 導入口上節(2番節)を引き出す時に、内部で道糸がたるまない様にトップガイドから出ている道糸には、常にテンションをかけながらゆっくり引き出してください。



たとえば、図のように道糸の先に10号程度のオモリをかける。

- 3 導入口上節(2番節)が引き出せた後に1番節をセットしてください。

- ご使用後の収納方法
- 1 釣り終了後は、糸カミトラブル防止のため、仕掛けを切り道糸をリールに巻き込み、各節を収納してください。
 - 2 必ず元上から順番に継ぎ目近くの両側を両手で持ち、下図のようにヒネリながら押すようにして、継ぎ目の固定を緩め、元竿に順番に収納してください。

この際、一気に力を入れると、釣竿の継ぎ目に手をさみ怪我をする恐れがありますので、注意しながら徐々に力を入れてください。

